

日本を外から見るー私が見た海外事情ー

【第1回 海外に行くということ】

今回から、「日本を外から見るー私が見た海外事情ー」というタイトルでお話していきたいと思います。ここ10年ほどは、あまり海外には出なくなりましたが、それまでは20年近く、年の半分は海外に出ていたので、何らかのご参考になればと思います。

私は、今まで出張・学会・旅行を含め、22カ国に行きました。以下が訪問先の国々です。

オーストラリア、韓国、中国、香港(現在のような状況ではありません)、台湾、マレーシア、タイ、シンガポール、インド、ロシア、スウェーデン、デンマーク、オランダ、ベルギー、フランス、ドイツ、スイス、オーストリア、イタリア、イギリス、カナダ、アメリカ

今回は、ちょっと長めのイントロになります。海外に行く時のいろいろな情報などをお話します。各所に「エピソード」や「ポイント」も記載しました。

目次

- (1) 海外に行くということ
- (2) スケジュール(行程表)を決める
 - ① 日時
 - * エピソード
 - ② 行動内容
 - ③ 滞在ホテル
 - * エピソード
 - * 旅のポイント
- (3) チケット予約

(1) 海外に行くということ

はじめて海外へ行くときにはわくわくするものです。

私のはじめて海外に行ったのはアメリカで、大学4年の夏休みでした。同期のお兄さんが大韓航空に勤務しているということで、大韓航空で行きました。ハワイ経由でした。

当時は、アメリカの雄大さ、モノの豊かさを感じたような状況でした。往復ともこの航空会社にお世話になりましたが、1978年、数か月違いで、帰国便の同じ便が当時のソ連に撃墜された事件がありました。恐ろしいニュースでした。

さて、社会人になって、出張で海外に行くことが増えてくると、ふと考えることがありました。いつも出国して帰国するわけですが、大前提があります。それは、「無事に」帰国できているということです。海外でのトラブルは、おいおいお話ししていきますが、実は、出国時には「100%帰国できる」という保証は全くないのです。

そこで、ある時点から、出発前に、空港から家族(家内)宛て「はがき」を出すことにしました。そこに書くことは、出発に際していろいろと準備を助けてくれた「感謝」の言葉です。思い切って、今までの感謝の言葉を書いても良いかもしれませんね。自筆で書くことに意義を感じていました。はがきは、空港で販売していますが、早朝のフライトや深夜のフライトでは、郵便局が閉まっていることもあるので、事前に購入しておくことが良いでしょう。もっとも、スマホが普及している現代では、スマホでのやりとりで済んでしまうかもしれませんね。

(2) スケジュール(行程表)を決める

ツアー等では、旅行会社が作成してくれますので、個人のスケジュールをそれに追記する程度で完了となります。この項目では、個人で全て作成する場合を紹介します。

海外出張に関しては、仕事の出張がほとんどだったため、個人で全てのことを行いましたが、訪問国がロシアの場合は別でした。事前準備する書類(入国等に必要なもの)は全てロシア語表記で、英文の表記は併記されていませんでした。現在は、もう少し改善されているかもしれません。このときばかりは、旅行代理店にお願いしました。

さて、行程表は、出発から帰国までの一日単位のスケジュールを表にして作成します。この中には、記載する項目は以下のとおりです。

①日時・曜日

時差が生じる場合がありますので注意してください。時差については、特にアメリカは要注意です。同じ州内でも時差のある場所がありました。

* エピソード

インディアナポリス州のフォートウェインという都市でのことでした。(ご参考。indianapolis という単語は、アクセントの位置に注意。インディア「ナ」ポリス、と「ナ」にアクセントがありますので、アメリカ人との会話では注意願います)

夜遅くレンタカーでホテルに到着し、出張のメンバーで明日の出発時間を確認後、時差の話を受付カウンターの人としていました。そうしたら、「ここは、先週時差が1時間早くなったのよ」と言われ、皆で愕然としました。早く寝ないと明日朝早く移動するのに支障が出てしまうのです。ホッとくつろぐこともせず、急いで部屋に戻り、就寝する、ということがありました。

アメリカ国内では、トランジットの空港でも必ず現在の時間を確認し、乗り継ぎ便に乗り遅れないようにしなければなりません。注意が必要です。空港での話も後でしたいと思います。

②行動内容

飛行機の便名、出発時間、到着時間。鉄道を使う場合も同様です。客先等の訪問時間等。

ヨーロッパは、鉄道で移動することが多くなります。その場合には、各国の鉄道のホームページで列車の確認をしておくといいでしょう。ドイツだと、「<https://www.bahn.de>」が役に立ちます。このあたりは、また後ほど説明できればと思います。

列車便が決まったら、該当ページを印刷しておくことが必要です。チケットを購入する際にとっても便利だと感じますよ。これも後ほどお話しします。

③滞在ホテル

ホテルの検索は「Booking.com」をよく利用しました。ただ、この1社だけではなく、何社かをチェックして、適切なホテルを探しましょう。ホテルの選択は、料金とロケーションがポイントとなります。

特に、ロケーションは行動範囲との兼ね合いから大切なポイントになります。

料金については、展示会等のイベントがある時期は要注意です。通常時期に比べホテルの料金は高くなります。都市部だと2倍以上になるところもあります。そのため、片道1時間以上かかるところに滞在しなくてはならない時もあるのです。

* エピソード

韓国ソウルのホテル予約の話です。

展示会か何かのイベントがあったのでしょうか。どのホテルも通常に比べて高く、すぐ予約に踏み切れないでいました。少し離れたところにホテルがあったため、行動範囲も考慮し、予約を入れました。当時の予約サイトの写真では、まあこんなものかな、という感じでした。

空港に財閥系韓国の会社の友人(韓国人)が迎えに来てくれ、ホテルまで送ってくれました。

到着したホテルがなんとラブホテル。入口に垂れ幕のようなものが下がっている感じのホテルでした。友人もちよっと笑いながら驚いたようでした。一人でチェックインする不自然さと連泊する不自然さは、なんとも言えない貴重な(?)体験でした。

* エピソード(その2)

イギリス・ロンドンでのホテルの話です。

ロンドン市内のホテルはとて高かったです。素泊まりで4万円以上のものが大半でした。

そこで、市内から少し外れた場所のホテルを予約しました。予約サイト上はこぎれいな感じのホテルでした。イギリスは、鉄道の移動で、数社へ訪問しますので、鉄道の移動時間を考慮してホテルのロケーションを決めることとなります。

ヒースロー空港から鉄道で市内へ移動し、メインステーション(パディントン駅)でタクシーに乗り、

ホテルへ向かいました。ホテルに到着すると、降り際にタクシーの運転手が名刺を渡してくれて「何かあったら連絡するように」と言ってくれました。はじめは何のことやらわかりませんでした。翌日の鉄道での移動のために、事前に、最寄り駅までの徒歩時間等をチェックしようと外出したら、街の雰囲気はやや違うように感じました。通りを行きかう人にイギリス人のような感じの人たちはおらず中東、南アジア、東南アジア系の人たちや、アフリカ系と思われる人たちだけでした。街に流れている音楽もインド系の音楽でした。

翌日、客先へ行った際、滞在場所を聞かれ「East Ham」と答えると、びっくりされました。現在は違っているようですが、当時は「なんでそこを選んだのだ。そこはロンドンで二番目に貧しくて治安の悪いところだ」と言われました。ホテルから駅までは徒歩300メートル程度の距離でしたが、「必ずタクシーを使うように」と念を押されました。実際には駅にタクシーは停車していませんでしたので、常に周りに気を付けながら早歩きで往復したことを覚えています。

*旅のポイント

滞在ホテルが決まったら、別紙にて「ホテル名、住所、電話番号」を記載(少し大きな文字で)した用紙をつくと良いでしょう。特にタクシーで移動するときに役に立ちます。空港に着いたとき、タクシーでホテルに移動することがあると思います。その際、この用紙をタクシードライバーに渡すと、スムーズに移動できます。

(3)チケット予約

ツアーの場合には、旅行代理店が行ってくれますので、個人でスケジュールをたてて出張・旅行する場合についてお話しします。

予算の関係もありますが、仕事の出張時には、いわゆる大手航空会社を選択した方が良いでしょう。しかも、なるべく目的地への直行便が良いです。どうしてもトランジットしなければならない時は、少ない回数ルートを選びましょう。

まず、利用する航空会社を考えます。

この時に、大きく二つのグループから選択することとなります。航空会社にはグループがあります。日系航空会社でお話すると、全日空(ANA)系と日本航空(JAL)系に分かれます。これは、それぞれ「スターアライアンス系」と「ワンワールド系」に該当します。面白いもので、羽田空港に電車(京急)でいくと、前方の車両はスターアライアンス系、後方の車両はワンワールド系の入口に近くなっています。成田空港の場合には、駅がそれぞれ用になっています。

海外に行く頻度が高くなるに従い、各航空会社利用に伴う「マイレージ」が貯まっています。このマイレージは、貯められる期間の条件があたりしますが、貯めれば貯めるほど、いろいろな特典がありますので、まずはこの二つのグループのどちらかに決めると良いでしょう。

私は、スターアライアンス系で、ヨーロッパへ行く際はルフトハンザドイツ航空か全日空(ANA)、東南アジアのタイへはタイ航空かANA、韓国へはアシアナ航空かANAを利用しました。アメリカへはユナイテッド航空かANAでした。

次に、どの席を予約するか、ということになります。

ファーストクラス、ビジネスクラスは問題ありませんが、窓側の席が気兼ねなく良いでしょう。

では、エコノミーの場合は、窓際か通路側か非常口近くか？

前の空間が広々としているのが「非常口」の列になります。ただ、窓側の席以外は、前の席背面にある荷物を入れるポケット等がないため、小物を持っている場合には、ちょっと困ります。ただ、この席は、なぜか早期に予約されていることが多いようです。前方の障害がなく、広々としていることあるでしょう。この列の窓側は、フライト中外気の影響を受けることがあり、かなり寒くなったことを覚えています。また、この列は、非常時にはスタッフのお手伝いをする事となります。搭乗時に個別に説明があります。何かあった場合の脱出は、最後のほうになるのでしょうか。

窓際はどうでしょうか？

この場合に問題となることがあるとすれば、それは一つです。トイレです。トイレに行きたい場合には、隣の人に声をかけて(休んでいるときには起こして)前を移動するか、立ち上がって通路に出ていただくか、しなくてはなりません。3席続いている場合には、2人の協力をお願いすることとなります。したがって、隣の方たちが席を立つタイミングで席を立つことが多くなります。

通路側は、逆の立場になりますが、他の方からは依頼されることがあっても、自分から他の方へ依頼することはなく、いつでも自由に席を離れることができるため、ストレスは少なく済みます。

席のポジションが決まった場合、機内の前・中・後方のどのあたりに座るかも考えると良いかもしれません。できれば前方の通路側で、席の前に壁があるような場所からは少し離れたところが良いでしょう。席の前に壁のある場所は、赤ちゃんがいる場合に利用する方がいます。仕方がないことなのですが、フライト中にむずがって泣いてしまうことが時々あります。このときに利用するのが「耳栓」なのですが、なるべく静かな空間を確保したい場合には、あえてその付近の席をとることはしないほうが良いと思われます。ノイズキャンセリングのイヤホンもお勧めです。

席の予約はチェックインカウンターでも行うことができます。「No kids around」と言って予約する方もいるようです。

頻繁に海外へ行く機会があるようでしたら、予算枠にもよりますが、アップグレードできるクラスのチケットを求めると良いと思います。マイルがたまり、アップグレードできるようになったときに便利です。また、チェックインの時に、荷物が重量オーバーになったときにも、アップグレードすれば、荷物を開けて中のものを取り出して詰め替えをする必要もなくなります。

今回は、このへんで。

次回は、海外に行くための準備について、お話しする予定です。